



水天宮略記

全国総本宮



水天宮年中行事表

1月 1日	歳旦祭	7月 21日	真木神社例祭
1月 5日	初水天宮祭	8月 5・6・7日	夏大祭
1月 初辰日	辰の水神事	8月 5日	花火大会
2月 立春	神水祈禱	9月 5日	講社大祭
2月 11日	紀元節祭	11月 15日	七五三祭
4月 中旬	千代松明神墓前祭	12月 23日	天長祭
5月 3~7日	春大祭	12月 23日	新穀感謝祭
6月 30日	大祓	12月 31日	大祓・除夜祭

月次祭

毎月 1日 5日 15日

ご案内図



水天宮社務所

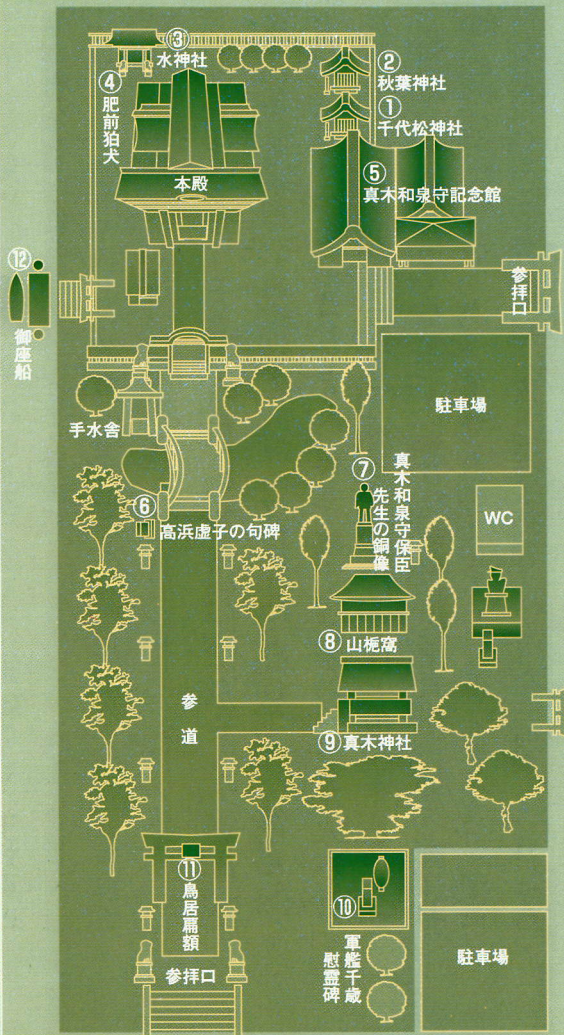
〒830-0025 福岡県久留米市瀬下町265-1

TEL0942-32-3207

FAX0942-32-3171

URL <http://www.suitengu.net/>

水天宮境内略図



つばき(水天宮御社紋)

①千代松神社

あぜ ちのぼねい せのみこと
水天宮の創始者按察使局伊勢命が奉斎されています。

②秋葉神社

あ じすきたか ひ こねのかみ
農耕・文芸の神であります、阿遅鉏高日子根神が奉斎されています。

③水神社

みつ は の めのかみ
水徳の神様であります彌都波能売神、安産の神様でありますうがやふきあえずのみこと鵜葺草葺不合命が奉斎されています。

④肥前狢犬

自分の痛いところを撫でればその痛みが取れるという事で「撫で狢犬」とも言われ地元の方々からもその崇敬は篤いものです。

⑤真木和泉守記念館

明治維新の中心的指導者であり、またここ水天宮の第22代の宮司でありました真木和泉守保臣先生の遺品遺墨が展示されています。

⑥高浜虚子の句碑

高浜虚子が筑後川を眺めながら詠んだ句が刻まれています。

⑦真木和泉守保臣先生の銅像

明治100年を記念して新たに建てられた銅像です。

⑧山梶窩

くちなしのや
これは、久留米藩改革の際、真木和泉守が久留米藩より水田村(現在の筑後市水田)の弟大鳥居信臣のもとに謹慎を命ぜられそこで付近の子弟の教育を行い、そこは尊皇倒幕の策源地ともなりました。そしてこの建物は資料により当時のものをこの地に模して建てたものです。実際の建物はまだ水田に現存しております。

⑨真木神社

みこと
真木和泉守保臣命をはじめ明治維新に際し国難に殉ぜられた一門及び門下生と、天王山にて真木先生と共に自刃された方々を奉斎しています。

⑩軍艦千歳慰霊碑

軍艦千歳は筑後川(別名千歳川)の名をとって命名されたものであり、艦内神社に水天宮を奉斎してあります。よって遺族の方々により昭和53年10月25日に建立されました。

⑪鳥居扁額

東郷平八郎元帥の書によるものです。

⑫御座船

毎年5月5日春大祭の御神幸祭時に御座船に御神輿を安置し船上にて祭典が行われます。

全国総本宮 水天宮由緒

福岡県久留米市瀬下町鎮座
(JR久留米駅西口より徒歩約10分)

一、御祭神 天御中主神 安徳天皇 高倉平中宮 二位の尼

一、由来

寿永四年(西暦1185年)、三月二十四日 壇ノ浦の戦の後、高倉平中宮に仕えていた官女 按察使局伊勢は千歳川(現筑後川)の辺り鷺野ヶ原に遁れ来て初めて水天宮を祀った。この頃は未だ筑肥の界も明らかでなくただ荒漠たる原野であつたという。今日、川を隔てて下野村があるが、近くの鷺ヶ鼻と言う地名は当時の古名が残つたものであると言われる。

伊勢は後に剃髪して名を千代と改め、里人に請われるままに加持祈禱など行っていたが、御霊験のあらたかにして、尊崇するもの日増しに多くなり尼御前と称え慕い社名を尼御前神社と呼ばれるに至つた。

その頃中納言 平 知盛卿の孫(従四位少将 平 知時の四男 右忠)肥後より千代女を訪ね来てこれを養いその後嗣とした。千代女逝去の後、里人その墓を営み松を植えて千代松明神とあがめ奉つた。同女は大和国(現奈良県)石上布留神社(現石上神宮)の神官の娘にして、墳墓は久留米市内株式会社アサヒコーポレーションの正門前に在り、奥津城祭(墓前祭)は毎年春に奉仕されている。

当宮は古来農業、漁業、航海業者間に信仰が篤いのみならず、子供の守護神、安産の神として或いは病難、火災などの除災招福の御霊験高きを以て聞こえ、畏くも明治天皇御降誕の砌、孝明天皇は当宮へ御祈誓遊ばされ御報賽として御安産の後鳥の子餅を御内々に御献供遊ばされた。

かくの如く御霊験あらたかなるを以て明治元年十月三日、禁裏御祈禱所(勅願所)に仰せ付けられた名社である。



一、鎮座

筑後川のほとり鷺野ヶ原に建久初年(西暦1190年)創建せられ、その後兵禍を避けて諸所に移し、遷御の遺跡と伝えられる所は幾多あり。慶長年間に至り久留米市新町二目に遷り、更に慶安三年(西暦1650年)九月久留米藩第二代藩主 有馬忠頼公は社地と社殿を寄進し現在のところに遷し奉った。

爾来御神威弥増に輝かせ給い、第九代藩主有馬頼徳公殊に尊崇せられ、文政元年十一月二日江戸三田の藩邸に御分霊を勧請された。その後明治四十年現在の中央区日本橋に御遷座されこれが現在の東京水天宮である。

このほか、国内・ハワイ等各地に鎮座する水天宮は、すべて当社を本宮とする御分霊社である。

因に当宮境内には幕末の激しい動乱期に勤王派の旗頭として、王政復古に一生を捧げた明治維新の先覚者真木和泉守保臣先生(第二十二代の水天宮宮司)を祀る真木神社がある。

一、例祭・その他

本宮では例年五月三〜七日の春大祭は水神信仰のほか子供守護神、安産その他除災祈願のため遠近よりの数多の参拝者にて賑わう。また八月五・六・七日の三日間は夏祭が斎行せられ、併せて郷土民の奉納による花火大会が筑後川の河畔対岸を舞台として、数多き仕掛花火・打上花火などとりまぜて発揚されるさまは延長六百米にも及び、その壮観華麗極まりなく西日本随一と称せられる。

